

B—19 手縫縫合線の良否に関する要素について

三重短大 ○大富千恵子
川田 光子
橋本貴美子
稲田 しげ

1. 和服構成はほとんど直線縫合線よりなり、これが構成上の重要な要素となっている。この縫合線が運針とどのように密接な関係があるか、またその他にどのような要素が関係するかを検討することを目的とした。

2. 黒新モス 50cm×17cm 2枚を用い、短大1年76名、2年70名に、脇縫の一部と仮定して白糸で縫わせ、手前に片返ししたものを実験資料とし、これを表の方から見て縫合線の良否につき評価した。方法は3名の評価者が共同で資料の中から5段階の標準見本を作り、この見本と資料とを比較評価し、その平均をとった。次に(イ)針目の均一性、(ロ)針目の直線性、(ハ)縫縮み率、(ニ)縫ずれ率の4項目について計測し、評価との関係について考察し、縫合線の直線性も記録した。

3. (イ)については相関は見られない。(ロ)についても相関は見られない。(ハ)については、かなりの相関が認められる。縫縮み率の大きいものは、明らかに低段階に評価されている。(ニ)については、1年の方には相関が認められるが、2年になると縫ずれの大きいものがなく、縫縮み率が大きく左右している。しかし、3の成績の中でも、5の成績より縫縮み率の小さいものがあるので検討して見ると、表縫合線において、うねりの目立つもので

あった。高段階のものには、各要素とも欠点が目立たない程度であり、一つでも目立つ欠点を持てば、その度合いに応じて、低段階に評価されている。